

「はばたけ未来へ！ 京都市ユースアクションプラン」
行動計画見直し案に関する市民意見募集の結果について

1 募集期間

平成27年10月28日（水）～11月27日（金）

2 御意見数

応募者数：197人，意見総数：298件

3 御意見をいただいた方の属性

(1) 居住地

京都市在住	京都市に 通勤・通学	その他	合計
92人	53人	52人	197人

(2) 年齢

10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代 ～	不明	合計
90人	74人	8人	5人	4人	1人	9人	6人	197人

(3) 性別

男性	女性	不明	合計
123人	71人	3人	197人

4 御意見の内訳

A：見直し案に反映したもの（26件）

B：見直し案に記載済み又は趣旨に含まれ、賛同いただいているもの（240件）

C：今後、施策を検討する際に参考とするもの（32件）

(単位：件)

関連する項目	A	B	C	計
1 行動計画見直し案の施策				
I-1 生き方デザイン形成（自分づくり）支援	3	59	3	65
I-2 青少年のチカラを活かした社会づくり	17	59	14	90
I-3 情報共有のしくみづくり	0	21	0	21
II-1 早期対応	1	26	4	31
II-2 解決支援	5	43	7	55
2 総論	0	30	2	32
3 その他	0	2	2	4
合計	26	240	32	298

No.	御意見の趣旨	件数	対応
I-1 生き方デザイン形成（自分づくり）の支援			
1	「インターネット・スマートフォンや薬物乱用防止に関する取組の推進」という表記は、薬物との併記によって、インターネット・スマートフォンが単に危ないという短絡的なものとなってしまうため、表記を改めた方がよい。	1	A
2	薬物に関しては、利用経験者を排除するのではなく、取り込んでいくことが大切と思う。	1	A
3	「ブラック企業」の説明を加えてほしい。	1	A
4	短期間の就労体験や、仕事を近くで見る機会を増やしてほしい。	10	B
5	色々な人や同世代の人同士が話し合ったりできるような交流の場などを作ってほしい。そういう交流によって視野が広がり、選択肢が増えると思う。誰でも参加できるものにしてほしい。	7	B
6	青少年活動センターは、青少年の居場所になっている。居場所としての青少年活動センターは必要であると思う。	5	B
7	インターネットが中心になっている生活で、私達への影響に関する啓発情報やマナーについての情報を発信してほしい。	4	B
8	インターネットでのトラブルが増えている。LINEやTwitter等は、あって便利であるが、トラブルも多いので、個人情報を出さないなど、一人一人が心がけることが大切だと思う。	3	B
9	生き方デザインについて、自分自身のことを深く知る必要がある。何か経験することで適性が見つかるかもしれないので、そういう経験ができる機会を増やしてほしい。	2	B
10	青少年活動センターでは、年配から子どもまで幅広い世代と接することができる。行事やイベントなどで関わりを持つことも非常に有意義なことである。色々なつながりを持つためにもこのような施設は必要だと思う。	2	B
11	ブラック企業、ブラックバイトの原因は、人手不足や業績不振等による資金不足だと思う。	2	B
12	ブラック企業やブラックバイトに入ってしまったときの対処法の知識が大切だと思う。	2	B
13	ブラック企業は改善する必要があると思う。特に労働時間が長いことや休みの日が少ないところの改善が必要である。	2	B
14	生き方デザイン形成支援の展開について、期待する。	1	B
15	自立のための対応力をどのようにして養うのかを考える必要がある。	1	B
16	青少年活動センターで大人や社会にもっと出会えるような企画を期待する。	1	B
17	「多様性を受け入れる能力」を身につける場としての青少年活動センターを活用すべきである。様々な年齢層が集まり、青少年同士の交流を促進するというのは学校でも家でもできることではないので、このような交流を通して色々な世界を知ることこそが、「多様性を受け入れる能力」を身につけるうえで重要であると思う。	1	B
18	皆で合宿をしたり、御飯を食べると楽しいと思う。大学生以上の人も交流がしたい。	1	B
19	青少年活動センターでは、団体ごと、事業ごとに青少年が参加するといった形がメインであるが、他団体との出会いの場としてつながりを作るのも大事である。	1	B
20	居場所作りについては、本来、若者が居場所と思える場を得ていくこと、又はそういう環境の整備のことであって、シンポジウムなどではないと思う。	1	B
21	もっと勉強ができるような自習室的なところがあると嬉しい。	1	B
22	若者が未来のために色々考え直すことは良いことだと思う。	1	B
23	スマートフォンやネットが広がり、私たちの周りには危険が増えた。SNSの書き込みからのいじめや薬物に手を出してしまう中高生もいる。	1	B
24	インターネットのトラブルに巻き込まれたときに、気軽に相談できるサイトなどがあればよいと思う。	1	B

25	若者が薬物乱用をしないように、府警と協力し麻薬取締を強化すべきである。	1	B
26	薬物乱用については、「自分は大丈夫」と思っている人は危ないと感じる。薬物乱用は恐ろしいものだとして恐怖を植えつけることが大事だと思う。子どもだからという理由で、くさいものに蓋をするのではなく、薬物乱用のありのままの姿を見せる必要がある。	1	B
27	職業観の醸成のためには、若者が何のために学び、何のために働くかを考えられるような取組が必要だと思う。	1	B
28	雇用については、若者側の未熟さだけでなく、経済・雇用側の整備やマッチングの課題が大きい。	1	B
29	将来どんな仕事をするかがあまり分からないので、企業ガイダンスや説明会を多く設けてほしい。	1	B
30	ブラック企業については、法律に違反した場合、求人募集を1箇月間出せないなど、その企業に対しての制裁金を課してはどうか。	1	B
31	ブラック企業については、労働局が企業に出向いて、実態を確認し、労働基準法に違反している企業に対して、ホームページでの報告等が必要であると思う。	1	B
32	ブラックバイトが気になる。高校生や大学生は、授業時間まで無理やり出勤させられたり、研修という名目で無料で労働させられる等の状況に置かれても声を上げることができないのではないかな。	1	B
33	労働に関する知識の普及啓発については、日本の労働の現状等について、理解する必要があると思う。	1	B
34	ブラックバイトは、シフトに関する問題が多い。アルバイト用に意見箱を作って定期的に報告させるようにしてはどうか。	2	C
35	ハローワークを充実してほしい。学歴で採用するのではなく、人格で採用してほしい。	1	C

I-2 青少年のチカラを活かした社会づくり			
36	地域活動への参加のためには、分かりやすい広報が必要である。	9	A
37	地域の情報が少ないので、情報提供をしてほしい。	7	A
38	若者の投票率を上げるために、大学に住民票の移動と投票を呼びかけてもらうよう市内の大学と連携してはどうか。	1	A
39	地域活動に参加してもらえるような工夫が必要であると思う。	9	B
40	教育に政治の話をするのは難しいことだと思うが、教育の場で、選挙の話題を取り上げてほしい。	4	B
41	「ボランティア＝大変」よりも「ボランティア＝役立つ」という考えを持つことが大事である。参加したら大変だと思うが、終わった後は達成感が生まれ、それが次の活動につながると思う。	3	B
42	ボランティア活動について、学校等と連携するのはどうか。	3	B
43	投票に行っても、誰がどのような考えなのか知らない。政治家の考え方などを分かりやすくまとめたチラシなどを作って配布するとよいと思う。	3	B
44	日本国内の文化だけでなく、海外の文化とのふれあいや異文化交流などもあってもよい。	2	B
45	自治会や町内会が個々で催しをするより、多くの自治会や町内会でイベントをした方が盛り上がり、若者が参加すると思う。	2	B
46	ワークショップなど意見を言い合える場があると、他人の意見に刺激を受けて若者でも意見が言えるのではないかな。	2	B
47	政治・選挙への若者参加は、普段から若者に対して分かりやすく伝えてもらうことが重要である。	2	B
48	投票日や投票場所などの情報をインターネットや車でのアナウンスなどで周知すればよい。	2	B
49	もっと若者が活動できるようにしてほしい。	1	B

50	若者は自分たちのポテンシャルを引き出すために、もっと積極的にいかないといけない。	1	B
51	現在の青少年たちも色々な体験等をしてみたいように見受けられる。青少年自らの力を引き出し、いくと同時に、色々な文化を学んだり、体験する場があってもよいと思う。	1	B
52	若者がやってみたいことを相談したり、実践する場がもっと増えればと思う。挑戦したいこと等について気軽に話せる場や応援してくれる存在があれば、より積極的に行動できると思う。	1	B
53	学生のまち京都の特徴を活かし、文化活動に取り組むサークルや学生団体の力を借りることができれば、文化体験の不足等の問題解決につながると思う。	1	B
54	青少年活動センターで今行われているイベントに加え、さらに多くのイベントを行うことで青少年も色々な経験をすることができると思う。	1	B
55	ボランティアや地域活動は、参加するにつれどんどん楽しくなるので、参加の機会があるということが大切だと思う。	1	B
56	ボランティア活動としての公園や河川敷等でのゴミ拾いや通学路の掃除などはどうか。	1	B
57	若者向けのボランティアを増やすべきである。	1	B
58	市内には数多くの団体が活動している。活動を始める際に相談できるところがあると、活動範囲も拡大するのではないかと。	1	B
59	子育てがしやすいまちにしてほしい。	1	B
60	生き方デザインの選択肢を増やすためには、テレビで婚活をやっているように、そういう機会を設けてほしい。	1	B
61	地域活動に参加したいが、授業、部活、バイト等で忙しく、なかなか地域活動に参加する時間がないという若者が多い。大学と地域、大学と市が連携して授業を通して地域活動の場を設けることで、興味を持つようになるかもしれない。	1	B
62	近所の人同士のつながりが薄い現状の中で、人々をつなぐようなイベントがほしい。地域で意見交換をするカフェなどを定期的に開くこともよいと思う。	1	B
63	今の若者はあまり地域に参加できていない。若者が参加したいことや地域を好きになれること、誇れることがあれば興味が出てくると思う。	1	B
64	若者が地域の人々と連携して何か行事を行う。そのことで地域を活気づけることができると思う。継続的に行うことが重要だと思う。	1	B
65	地域活動への参加は、自主的にやりたい人がやるべきなので、無理に勧誘をしないことが大切である。	1	B
66	若者に京都が住む場として選ばれ、若者が地域の一員として交流していけるようにしてほしい。	1	B
67	青少年活動センターの認知を広めて地域の方の利用を増やし、地域にとってなくてはならない存在になれば、センターでの交流を通して、若者の地域社会への参画の促進へつながるのではないかと。	1	B
68	青少年活動センターにはマンガを読めるスペースや勉強できる場所があって、とても良い。社会的な活動を広げていけば、もっと良い場所になると思う。	1	B
69	青少年活動センターの取組として、地域と関わることでできるものを増やしてほしい。地域の方と青少年がふれあう機会を作ることで、情報交換の場になる。	1	B
70	若者は、社会体験をもっと行い、社会との接点を増やすべきだと感じる。	1	B
71	市政参加については、楽しい要素を採り入れ、創造性の向上という観点が必要である。社会の未来づくりに必須だと思う。	1	B
72	市政への参加については、公の施設を活用してほしい。個人情報保護を確立することで意見が言いやすくなると思う。	1	B
73	市政参加は、その人が行動すれば、社会や地域にどのような影響を与えるかを示して参加を促してはどうか。	1	B

74	青少年が社会の一員として、意見を求められ、それが実現していく仕組みを大切にしてほしい。そういう仕組みを整えてほしい。	1	B
75	公職選挙法改正で、選挙権年齢が18歳以上に引き下げられたことにより、青少年の理解を深める場がもっと必要になると思う。	1	B
76	投票の方法を現在の記入式ではなく、簡単なタッチパネルやマークシート式にしてほしい。若者でも行きやすくなるように思う。	3	C
77	大学に期日前投票所を設けてはどうか。	2	C
78	足を運ばなくても投票できるようなインターネットでの投票を行えば、投票しやすくなるのではないか。	2	C
79	「世の中はボランティアであふれている」と言ってボランティアの敷居を下げるとともに、集団心理を利用し、参加人数を増やす。	1	C
80	若者の市政参加をある程度義務化する必要があるのではないか。	1	C
81	政治家の政策が分かりにくいので、若者にも分かるような言葉で説明してほしい。投票所で、立候補者の名前だけでなく政策の内容をひとこと書いてあれば分かりやすい。当選させたい人ではなく、当選させたくない人を選ぶ方式はどうか。	1	C
82	若者が自由に政治家に意見を言える会があればよい。若者が政治に関心を持ち、投票率の上昇につながると思う。	1	C
83	投票場の雰囲気が堅苦しい。もっと若者に対するアプローチの仕方を考えたり、選挙の環境も若者が行きやすいような環境にしてほしい。	1	C
84	若い人たちが選挙に行くようにするためには何らかのメリットが考えられないか。	1	C
85	選挙の期間が短すぎると、予定があると行けない。選挙前投票があったとしてもそこまでして投票に行こうとは思わない。	1	C

I-3 情報共有のしくみづくり			
86	青少年活動センターの存在を知らない青少年もいる。身近に知ってもらえるよう広報をする必要がある。	6	B
87	広報に力を入れ、市民しんぶんや青少年活動センターの事業の記事を載せてほしい。	4	B
88	SNS等を利用して若い人向けに発信していくことが必要だと思う。	3	B
89	京都市ユースアクションプランを皆に知ってもらうのが重要である。	3	B
90	おもしろいことをやると、若者も興味が向く。広告やPRも楽しそうな興味を向かせるようにやってみてはどうか。	2	B
91	若者文化の取組として、「京まふ(京都国際アニメ・マンガフェア)」のようなイベントをしてほしい。今年行ったが、結構多くの人注目している。	1	B
92	青少年活動センターに多くの若者が集まり、活動するようアピールしてほしい。そのためにも学校と連携してほしい。	1	B
93	居場所作りなどの取組は比較的充実しているが、周知がまだまだ進んでいないと感じる。	1	B

II-1 早期対応			
94	子ども達の孤食化や栄養不足など様々な問題が出ている。	1	A
95	就労支援については、企業が求めている人材についての意見がほしい。ニートなど悩みを抱えている人に、相談できる場所や、できる限り仕事ができる環境を作してほしい。	3	B
96	居場所などの場を作ることは大切だと思う。	2	B

97	居場所は、入り口を広くしてほしい。迎え入れてくれる気持ちのある人がたくさんいる施設があればよいと思う。	2	B
98	貧困問題は、子どもから大学生まで、何かしらの問題を抱えている。その問題を知ることは簡単だが、対策を考えることは難しい。問題が解決してほしいし、自分ができることは協力したいと思う。	2	B
99	子どもの貧困については、学校やケースワーカーの関係機関や支援者等が情報共有を行う必要がある。	2	B
100	それぞれの状態に合ったサポートの充実、ひきこもりからの第一歩の居場所、働いている状態での相談の機会が大事である。	1	B
101	居場所の取組については、自分に居場所なんてあったかなと自信をなくしてしまう。	1	B
102	行政が作る居場所は、そこにいる人が本気で自分に友好的なわけではないし、自分に合わない人が確実に多いであろう中に入って行きたいと思わない。	1	B
103	居場所作りは、定期的に気負うことなく外に出る機会として、非常にありがたいと感じる。居場所が存在することを広く知ってもらえるようにしてほしい。	1	B
104	ニートやひきこもりは、学校や職場に「居場所」がないと感じているから生まれてくるものだと思う。そのため学校や職場にも「居場所」づくりは必要だと思う。	1	B
105	仕事に就いても人間関係が乏しい人は家と仕事以外の場がなく、息抜きなどうまくできないままになる。就労の定着支援の一つとして居場所が増えてほしい。	1	B
106	居場所づくりについて、カフェのような場所でお茶を飲みながら過ごすような場所があると嬉しい。	1	B
107	相談や悩みなど、様々なことをゆっくりと話せるような場所が多くあってもよいのではと思う。話すだけで少しは心もすっきりすると思うので、そんな場所を増やすとよい。	1	B
108	大学に入って多くの人とコミュニケーションを取るようになり、一番の相談相手は友達だと感じている。居場所がない人は、コミュニケーションを取れる場所に行けばよいと思う。	1	B
109	学習支援の拡充は必要であり、制度の認知や、支援の場に子どもがつながるような工夫が必要だと思う。	1	B
110	子どもの貧困については、奨学金などで学費を無料にしてほしい。できなかつたら、部分負担でもよい。	1	B
111	いじめはあかん。絶対あかん。みんながひきこもってしまう。	1	B
112	ひきこもり・不登校になる理由は、いじめやネットゲームの普及が原因であるという意見がある。その改善のためには、いじめの早期発見と、教師と親が厳重に注意をすることである。ネットゲームに関してはゲームから子どもを遠ざける等の工夫をする。	1	B
113	ネットゲームによる不登校が、自分が中学校のとき多かった。この解決法としては、それ以上に面白いことを見つけさせるか、与えるしかないを考える。	1	B
114	いじめをなくすことにより不登校が少なくなるのではないかと思う。	1	B
115	食糧無料配布も貧しい子どもには良いと思う。	1	C
116	フードバンクと呼ばれる団体・活動がある。メーカーや小売店から提供してもらった、賞味・消費期限間近の食品を、各家庭に配ったり、拠点となる場所で食べていただくなどの活動であり、こういう活動を提案する。	1	C
117	市バス・地下鉄の広告で若者サポートステーション等の広報をしてはどうか。	1	C
118	悩み相談室を各学校に、雰囲気の良い入りやすいカフェのような形で作ってほしい。	1	C

II-2 解決支援			
119	ひきこもり等の支援では、同じことを経験したことがある人などが、ひきこもりやニートになったきっかけやどのように立ち直ったのかを話してもらってはどうか。	3	A
120	ひきこもりの支援では、家まで出向いて行って直接話をするなどの訪問支援が必要だと思う。	2	A
121	子ども・若者総合支援の周知について、関係機関を通じてあるいは、支援機関への発信はとても重要である。相談窓口がどこにあるか等をもっと広報すべきである。	2	B
122	ニートやひきこもりの相談場所は、少人数のほうがいいと思うが、相談相手と自分1人では相談しにくいので、相談相手と信頼できる人や家族一緒に相談できるような場所にしてほしい。	2	B
123	ニートやひきこもりの人は、人と話すのが苦手な人もいると思うので、個人の趣味等を知って、例えば、動物にふれあうようなことがあると心を開いてくれるのではないかな。	2	B
124	ニートやひきこもりの相談をネットを使ってみるのもよい。そのほうが気軽に相談できると思う。ひきこもりの人には気軽さというのが大事だと思う。	2	B
125	ひきこもりやニート、不登校に対する支援の充実は喫緊の課題で、若者が社会参加をしていくためには必要な施策であると思う。	1	B
126	悩みを1つでも解決できるように頑張ってもらいたい。	1	B
127	家庭環境が悪い子ども、学校に通えず社会になじめない子どもなども困難を抱えていると思う。そこにも目を向けるべきだと思う。	1	B
128	小学校、中学校といじめにあった。誰にも相談せず自己解決し頑張って耐えた。自分と同じ悩みを持った人はたくさんいると思う。同じ年代の同じような悩みを持った人たちでワークショップなどし、話しやすい空間で悩みを相談、声に出してみる必要があると思う。	1	B
129	いじめを受けている人は相談することもできないような状況になっているかもしれない。身近なところに相談できる場所があればうれしい。	1	B
130	今後、ますます青少年が暮らしにくい社会になっていくことが推測される。いじめ・不登校問題等といった様々な悪影響をもたらすと思う。	1	B
131	相談窓口というより、話を聞くだけ、深いところまで聞かない居場所作りが必要だと思う。	1	B
132	相談は、自分の話を傾聴、共感できる人に悩みを聞いてもらったほうが嬉しい。	1	B
133	相談などに行きやすいところを作るために、フレンドリーな場所やオープンなところを作っていたらよいと思う。	1	B
134	相談は、誰か分からない人に話そうとは思わないので、話を聞く側の人が、どんな人かを知ってもらい、顔を覚えてもらうことが必要である。	1	B
135	カウンセラーなどへ相談に行くのが恥ずかしくていけない人のためにも、自分が考えている挑戦をした人の経験談を書いたらサポートになると思う。カウンセラーに相談はしたいけど会話が苦手な人のために電話で相談するのもよいと思う。	1	B
136	行き詰まったときに、相談や話を聞くことができる団体・施設を作ることが重要である。	1	B
137	悩みの相談は、悩んでいる内容が恥ずかしくて異性に言えない人もいると思う。相談窓口でなくても、自分が本当に信頼している人に相談すればそれでよいと思う。	1	B
138	外から見て「相談所に行った」と分かるような場所には行きづらいと思う。市役所とかそういう場所に設けたらよいのではないかな。	1	B
139	ひきこもり等の相談窓口が本当に行きやすい相談しやすい雰囲気なのか見直すべきである。	1	B
140	ひきこもりが最近よく問題になっているが、地域在住の人がよく悩みを聞いてあげて、相談にのってあげることが大切だと思う。地域支援を推進することは良いことだと思う。	1	B
141	ひきこもりについては、地域で親だけが集まる機会を設け、自分の子どものことでの悩みを地域の人に打ち明けて、他の人たちにアドバイスをもらう。	1	B

142	ひきこもりを外に誘い出してあげるといってもいいが、そういう人はプライドや自分の確固たる自分の意見を持っているので、慎重に丁寧に接することが必要だと思う。	1	B
143	世の中にはひきこもりでも外に出てみたいと思っている人がたくさんいると思うので、その人たちの手助けをしてあげたらよい。	1	B
144	ひきこもりは本人に責任があるわけではなく、外的要因がある。学校に行けと責めるのは間違いである。ひきこもった原因を探るのもよいが、やり方を間違えれば、かえって本人の傷をえぐってしまうことになりかねないので、本人が楽しいと思えることをやらせる、好きなゲームをさせる、マンガが好きなら気が済むまで読ませればよい。そうすれば、本人の気持ちもいくらかは軽くなって、ひきこもりに向き合えるかもしれない。	1	B
145	ひきこもっている人が多いのは、悩みを打ち明ける場所がない、信頼している人がいない、部屋にいるほうが楽しいなどと思っているからで、悩みを抱えると誰でもなりがちな行動だと思う。そういう人たちが少しでも減るように、活動できる場所を設けたり、外に出るのが楽しいと思わせるようなイベントや活動をしたらよいと思う。悩みを打ち明ける人がいるだけで精神的にも楽になる。	1	B
146	ひきこもりについては、交流場所を考えるため、人数の把握をすべきであると思う。まず人数の把握をし、現状を考えるのが重要である。	1	B
147	ひきこもり等は個人の、家庭の、社会の産物であり、残念ながら無くなることはないように思える。よって、このような取組、システムは必要になってくる。目新しいものを始めるというより、今までの取組を継続していく流れの中で必要なものが出てくるし、そこで創意工夫していくものだろう。相談は日に日に増えてくる。丁寧な対応を考えていこうとするならば、一支援者の担当人数には限界があり、その点で人的支援も増やすべきである。	1	B
148	ひきこもりであったが、青少年活動センターで人間関係に対する不安をやわらげることができ、働きに行けることになった。機会さえあれば社会復帰できる青少年は京都市にたくさんいると思う。	1	B
149	ひきこもり等は、1人である子に目を向けるなど、学校での生徒の生活をもっとしっかり見てあげるとよい。	1	B
150	ひきこもりの支援は、雰囲気や場づくり、安心感と信頼感があれば少しは相談しやすいのではないかな。最後、相談するかどうかは本人の意思なので、来ることができるような場づくりをしていれば伝わると思う。	1	B
151	ひきこもり対策に関しては、学校という場所以外にも、自分のホームグラウンドがあると感じてもらえるようにする。一人部屋を与えずにリビングで生活させ、家族と関係改善させ、その子に合ったアルバイトの職種を体験させ社会に出てもらう。その前からひきこもりをつくらない環境づくりをする。	1	B
152	ひきこもりや不登校など様々な問題を抱える青少年たちがいる。そういう心の形を抱えた青少年たちが常に新しい体験をし、また集える場所がいつでもそばにあることは喜びである。	1	B
153	学校以外に行き先がない場合の逃げ場があることの重要性について、居場所を作ることで完全なひきこもりを防ぐことができるが、現状では青少年活動センターのみに限られ、足が向きにくいという欠点がある。青少年活動センターにたどり着けない青少年への対応は可能か。	1	B
154	学校に行きたくなくなったとき、家にいることに罪悪感があつたので保健室の小さなスペースを借りて登校することにした。友人と出会ったり、同年代の人の目を気にすることなく勉強できた。自分の行きなれているところにまず1人で居られるスペースを作ってあげることが大切だと思う。	1	B
155	フリースクール等の民間の支援も充実してきたが、まだまだ学校側がそれらを紹介するというのは難しい現状がある。また、保護者も、学校外に支援を求める発想もまだまだ少なく、フリースクールの存在を知らなかったという声は多い。もう少し的確な情報提供が必要だと思う。	1	B
156	不登校支援について、学校、民間、青少年活動センター等がお互いの情報を交換し合い、それぞれ	1	B

	れのできることを知っておくことが大切である。		
157	アルバイトの前段階の働く場の拡充が望まれる。また、企業に対してもそういった若者を広く受け入れる体制も必要なことだと思う。	1	B
158	青少年の死因として、自殺は大きな割合をいまだ占めている。まだまだ支援を必要としている子どもは多いと思う。	1	B
159	数値を見ると目標より実績のほうが高いものがあるが、これは悩めるものが増えているということで、実績数値が少なくなって、そしてゼロになったというのが理想の形だろう。	1	B
160	「相談窓口」という名前では、「いじめ相談窓口」や「悩み相談窓口」等そういう言葉に劣等感を覚えたり不快感を与えてしまい、行きづらいのではないかと。	2	C
161	福祉や保健など、対人援助職をめざす学生の人と交流できるようにしてほしい。	1	C
162	「悩みを相談したい」と思ったらすぐに利用できる環境づくりが大事である。スクールカウンセラーは関わり過ぎて友達感覚での相談相手にならないように気をつけながらも、学生とカウンセリング以外での関わりを少し増やし、相談することへの抵抗を少しでも取り除けるように活動したらよい。	1	C
163	悩みを抱えたときに、行政が変に介入したところでどうなるということもないため、家族が支えていくしかないのではないかと。	1	C
164	ニートには相談室への参加を強制するとか、ボランティアを一度は強制でやらせるとか。優しくしても仕方がない。自分から動かなければ生きていけない。自分の意見を主張できる雰囲気を作ってはどうか。	1	C
165	社会不安障害という病気で苦しんでいるが、この治療にはカウンセラーの存在が大変重要である。カウンセラーの増強を望む。また、産業カウンセラー等の外部でのサポートも必要かと思う。いろいろなことが不安で、少しでも安心したい。	1	C

総論			
166	青少年活動センターには非常に良くしていただいている。事業内容にも満足している。職員の方々も明るく、相談にもアドバイスをくれるので感謝している。	3	B
167	若者への支援やアドバイスをもっと色々増やしてほしい。	3	B
168	青少年活動センターの一つ一つのプログラムを運営するために必要な時間、スタッフの力などを分析し、より丁寧に若者に向き合える環境を作してほしい。	2	B
169	青少年活動センターのない地域・行政区に住む青少年に対する支援も必要である。区域に関係なく全ての若者が様々なサービスを受けられるようにしてほしい。	2	B
170	京都市がんばってください。	1	B
171	青少年活動センターが果たす役割は、今後より期待されると思う。	1	B
172	若い人が、自分がしたいことに打ち込むエネルギーを他のことに費やされている。貧困や家庭の事情、対人関係などでエネルギーを消費し、将来に対してエネルギーを使うことができない。そんな現状の解決のために、様々な連携を行う役割が青少年活動センターに求められている。	1	B
173	青少年がいつも利用でき、集える場所として、京都に青少年活動センターがあることは大変好ましく思う。	1	B
174	時代は移り変わっても、青少年活動センターとスタッフのサポートは必要であり、存続してほしいと切に願う。	1	B
175	青少年活動センターは必要である。センターの職員ともっと話したいのに、いつも忙しそうである。	1	B

176	青少年活動センターが青少年を優先しつつ、一般へも開放し一般料金で利用できることは、青年期を過ぎても何かをやりたい者たちにとってはありがたい。	1	B
177	青少年と地域社会に対する自治体の努力が分かった。青少年と地域への支援によって、生活の質が向上するとよいと思う。	1	B
178	京都市がユースアクションプランを策定し、しっかり行動されているのが市民として嬉しい限りである。	1	B
179	若者の自立支援を積極的にされていることがこの計画から感じられる。	1	B
180	行動計画見直し案について、非常に良いと思う。	1	B
181	今回の行動計画見直し案は、青少年の「生き方デザイン形成支援」と「困難を有する青少年支援」ということを柱にしている、これはとても重要なことだと思う。	1	B
182	行動計画見直し案について、青少年を取り巻く課題についてとても幅広く記入されていると思う。実行のためには、より専門性の高い機関の連携が必要だと思う。	1	B
183	若者は、この計画以外にも色々な悩みがあるので、それらにも対応していくことが大切だと思う。	1	B
184	青少年に対してこのような取組がされていることを初めて知った。	1	B
185	市民の意見を汲み取っていただける機会はある。	1	B
186	行政は、問題が起きる前に対策してほしい。	1	B
187	寺社や大企業などに協力をお願いし、子どもや若者が生き生きと暮らせるまちに努力しながら作り上げていきたい。	1	B
188	京都市は将来のために、青少年にもっと予算をかけるべきだと思う。	1	B
189	ユースワークは良い取組だと思う。もっと全国に広がるようにしてほしい。	1	B
190	見直しの点が多過ぎる。何か一つに絞って政策を推進すべきだと思う。	1	C
191	こういう意見募集をしたところで何も変わらないと思う。	1	C

その他			
192	未成年の喫煙を黙認している雇用先の指導、コンビニなどタバコや酒の販売における身分確認の指導を行うほか、罰金や営業停止処分にする条例を定めるべき。	1	B
193	ジムの使用料が高いところがあるので、安価な使用料のジムを作してほしい。	1	B
194	甘やかしと過保護で育ち、社会ルールやマナーを知らずに突然実社会に放り出されたら困るのは当たり前だと思う。	1	C
195	青少年に対しては、もっと辛口な感じで接するのはどうか。思い上がってしまうのではないかな。	1	C